



発行者 楽しい株式会社

住 所 北九州市若松区向洋町 10 番 1

北九州エコタウン実証研究エリア内

Tel 093-752-5300 fax 093-752-5303

ハチドリ通心(信)

2008年4月号 E-mail ceres@fun-c.jp URL http://www.fun-c.jp

CERES安全な竹割り箸

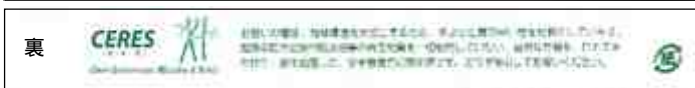
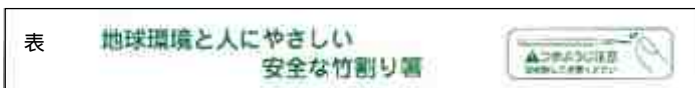
洞爺湖サミットに40万食分の
竹割り箸を供給



今やメリーズシステムの循環の仕組みにはなくてはならないものとなった CERES 安全な竹割り箸と使用後のリサイクル。

使用済竹割り箸の炭焼きリサイクルを始めて 8 年。途中、竹割り箸に含有する防カビ剤や漂白剤の有害性を知り、リサイクルをすべて一旦中止はしたものの、平成 15 年に体内に有害とされる防カビ剤や漂白剤を一切使用しない CERES 安全な竹割り箸を開発し、リサイクルも再開。現在では年間約 6000 万膳を供給し、そのうち約 60% は契約する全国 16 ヶ所の知的障がい者などの福祉施設でリサイクルを行っています。

その CERES 安全な竹割り箸は 4 月から 7 月までの間、その安全性と環境配慮が評価されてサミット事務局が公式に提供する食事の箸として、採用され、約 40 万膳を供給します。採用された箸は炭化天削 21cm 最も人気がある箸です。使用後のリサイクルは、契約する長野市の福祉施設「エコファミリー」さんに委託をする予定です。



サミットで採用された箸と箸袋

楽しい株式会社が

なぜ安全な割り箸を作ろうとしたのか

(以下 2004 年 1 月 17 日発行
「医学のあゆみ」掲載記事全文)

安全な竹製割り箸と竹炭へのリサイクル

日本人 1 人 1 年で 200 膳

日本人が 1 年間に使う割り箸の本数は 250 億膳、1 人平均で 200 膳になる。資源を大切にということでプラスチックの箸を使う人や、マイ箸運動で割り箸を使わ

ない人もいるが、全体量の 250 億膳はここ数年変わっていない。そのうち 7 割が白樺やポプラ、松などの木、3 割が竹だと言われている。現在では、一部の高級箸を除き、竹製割り箸の 97% 以上を中国からの輸入に頼っている。理由は単純明快、安いからだ。

割り箸から見た環境問題と

中国製割り箸の安全性

250 億膳を木に換算すると 80 万本、その森林面積の広さは、何と東京ドーム 80 個分に及ぶ。森林の持つ二酸化炭素を吸収する働きは、地球温暖化防止の面からも重要だ。中国やロシアでは、皆伐方式といって木を山ごと伐採して割り箸を作るやり方だ。また、伐採した後ほとんど植林がされていないために、大洪水も引き起こし、今、中国では森林伐採が深刻な環境問題になっている。

木は成長するのに数十年かかるのに比べ、竹は 3 ~ 4 年で成長する。しかも、木は植林をしなければならないが、竹はどんどん自生していく。いわば、無尽蔵の資源だ。割り箸を使わなければならないのであれば、竹のほうが自然には優しい。

ところが、その竹にもカビが生えやすいという弱点があった。現在、中国で作られている割り箸には、そのほとんどが、製造過程で何らかの防カビ剤や漂白剤が使用されている(図 1)。2002 年秋ごろからテレビや週刊誌が、現在の輸入割り箸には発ガン性など、危険性のある有害物質が含まれている可能性があるとして報道した。そして、金魚鉢に中国産の割り箸を入れると、割り箸に含まれる防カビ剤や漂白剤が溶出して、金魚が 1 週間で死んでしまうと伝えた。

私自身も中国産割り箸の危険性には以前から気がついていていたが、自身で確かめてみたいと、2002 年 12 月 28 日に水槽に 4 匹の金魚を入れ、その中に 15 膳の竹割り箸を沈めて実験をした。1 日後には水槽の水が濁り、3 日後にはだんだん黒く変色、気持ちの悪い泡が水面を覆った。そして、ちょうど 7 日目に 4 匹全部が浮いてしまった(図 2)。この箸には防カビと見栄えを良くする為だけに漂白をする目的の二酸化硫黄が使われていた。

このように世間が騒いだことから、2003 年 1 月に厚生労働省が動いた。安全性確保から、オルトフェニルフェノール、チアベンダゾール、イマザリル、ジフェニル、二酸化硫黄の 5 種類の防カビ剤、漂白剤の割り箸への含有基準を設け、基準を超えて検出された場合には輸入業者に自主規制を求めた。しかし、前述の実験の時に使った割り箸は、この基準をはるかに下まわっていた。



図 1 中国の割り箸工場

左：割り箸製造の様子

右：箸を 7 日間、防カビ剤・漂白剤の薬漬け状態にする

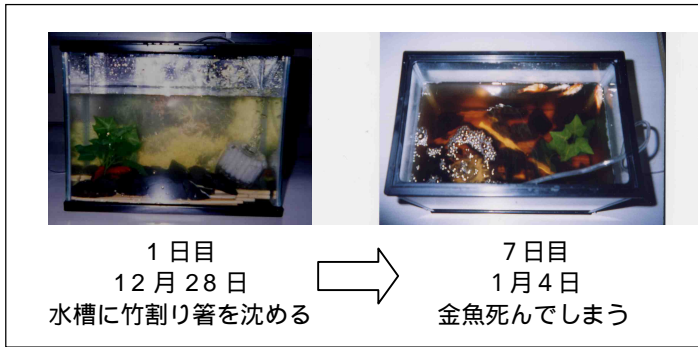


図2 中国産割り箸を水槽に沈める実験

安全な割り箸を作った理由

弊社は、業務用生ゴミ処理機と抗菌・防カビ・鮮度保持・ダイオキシン抑制剤を主力製品としており、全国650の飲食店、ホテル、病院、食品製造会社がお客様である。お客様をまわりながら、厨房の安全衛生とゴミ減量・リサイクルによる環境対策を行うことが仕事だ。その中で頭を悩ませていたのが割り箸で、かさ張ったり、ゴミ袋を突き破ったりして、割り箸も使い終われば厄介者だった。

そこで、3年前より資源を大切に、使用後の割り箸を竹炭にするリサイクル運動を呼びかけてきた。参加していただくお店や、竹炭を焼いてくれる窯が増えてきた。しかし、箸を炭にしていく時に、割り箸に含まれる防カビ剤や漂白剤の種類によっては、ダイオキシンや硫酸酸化物といった有毒ガスを出す可能性もあることも気になっていた。

その1 .世界中から非難を浴びている使い捨て割り箸を、いつまでも年間250億膳も使っていいのだろうか？ しかし、日本の食文化は急には変えられない。だったら環境に優しい竹割り箸使用をもっと呼びかけていこう。

その2 .金魚が1週間で死んでしまう。そのような危ない箸を使ってはいけない。しかも、厚生労働省の基準以下でも金魚は死んでしまう。

その3 .善意の輪であるはずの使用済み割り箸の竹炭へのリサイクル運動で、ダイオキシンや硫酸酸化物などの有毒ガスを出すわけにはいかない。環境に優しく、口にする時に安全、リサイクルする時も安全、そんな割り箸を誰かが作ってくれるのを待つか・・・？

否、自分でやらなければこの問題を解決する方法はない。安全な防カビ技術はもともと持っている。

日本一安全な竹割り箸を作る。しかも、今までの箸と同じ価格で広げられるようにする。そして、竹炭へリサイクルし、土に戻していく。

決意して6ヶ月、試行錯誤を経て、有毒成分は一切使わず、また、見栄えを良くするためだけの漂白も行わず、自然の風合いを残した安全な箸が完成した。竹のカビを防ぐのには全く安全なミネラル成分のみを使った。

7月より正式に供給を開始して数ヶ月、テレビ・ラジオ・新聞が報道してくれたこともあり、当初の予定をは

るかに上回る受注と引合いが続いている。作った本人が驚いている。安全の提供と環境配慮は、全ての事業活動において必要不可欠なものとなってきた。当たり前のことだが、そんな時代になってきたのだなあとおつくづく感じる。

あとがき

この小論文は「医学のあゆみ」から頼まれて、今から4年半前に書いたものです。久し振りに読み返してみてもつかしく思いました。しかし、その時の想いも今の想いも全く変わっていないことに気付きました。できることをやる、継続してやる、その大切さを改めて胸に刻みました。

リサイクルに参加をいただいている店舗・事務所の皆様、炭焼きリサイクルをいただいている福祉施設の皆様、どうもありがとうございます。これからも引き続きよろしくお願いいたします。



お知らせ その1

割り箸の安全性が国会でも・・・

3月24日の国会にて、民主党友近議員より、割り箸に含有する防カビ剤・漂白剤の安全性について質問がなされ、舛添厚労省大臣より漂白剤等の含有基準引き下げなど、厚労省の見解が示されました。

お知らせ その2

中国製ギョーザだけではない

テレビ朝日スーパーモーニングが中国製割り箸の特集3月25日「薬漬け中国製割り箸の製造現場」として、20分間の特集報道を行いました。衝撃的なニュースでした。内容を詳しく知りたい方は、当社までお問い合わせ下さい。

お知らせ その3

みのり箸大好評

国産竹で無漂白、安全なミネラル成分で抗菌も行う塗り箸「みのり箸」が大人気です。割り箸に替え、使用される飲食店が増えてきました。

ご希望の方にはサンプルを差し上げます。

ただし、現在ご注文をいただいて、2ヵ月以上の待ちになっていますがどうぞご了承ください。

急ぎ増産体制を整えます。

スーパーモーニング放送内容お問い合わせの方 みのり箸(国産竹塗り箸)サンプルご希望の方

電話、またはFAXにてご連絡お願い致します。

TEL 093-752-5300 FAX 093-752-5303

ハチドリ通心(信)は楽しい株式会社のホームページでご覧いただけます。URL: www.fun-c.jp/ (松尾康志が担当しました。)